

PAC3岐阜基地に前倒し配備—三菱に巨大利権

PAC3（ミサイル防衛システム地对空ミサイルパトリオット）が予定を一年前倒しして、二〇〇九年二月に岐阜基地（各務原）に配備されることになりました。夏ごろまでには白山（津市）、饗庭野（滋賀県高島市）にも導入されます。防衛省が関係自治体に通知したことが報道されました。（中日4・22）北朝鮮のミサイル発射などをふまえて前倒ししたと説明しています。

六カ国協議は進展しかけましたが、ブッシュ政権末期での政権や議会内での主導権争いや韓国新政権誕生などで先行きが多少不透明になりつつあります。そのなかで、PAC3の配備前倒しが北朝鮮を口実におこなわれるというのは、緩和されつつあった東アジアの軍事情勢の緊張—軍拡の拡大を促すことになります。

中部地域では浜松基地に今年度内の配備がすでに決まっています。計五個部隊（岐阜は二隊）が配備されることになります。

—二にも巨大利権が存在—

PAC3は三菱重工がライセンス生産します。（主要工場は小牧北工場）。ミサイル防衛は完成したシステムではありません。実験しながら、実戦配備を繰り返し、完成の見込みはまったく立っていません。ですから、投じられる費用は青天井で巨額が三菱に流れるのです。軍需産業にとってこんなおいしい仕事はありません三菱はイー

ス艦の建造やシステムの变更でも造船他社と利権を分かち合います。軍に

とつても無制限に予算を獲得できるという産軍複合体の行き着いた先の見本みたいなものなのです。

さらにライセンス生産というのは、直接輸入するよりも非常に高価なものになるのです。ライセンス料には開発費の分担も言いなりの価格で含まれますし、新たな製造設備への投資も納入価格に転嫁されます。「国産」という名目で必要のない経費も国が負担することになります。（私たちの税金です）

三菱は〇七年度決算発表で航空宇宙分野への大幅な投資と人員の増強を表明しました。新型ジェット旅客機の開発が主要な目的であると報道されていますが、それだけではありません。PAC3の生産の本格化も計算に入っているのです。

—どんなにミスを積み重ねても国家が補填

…国策企業三菱重工

次期輸送機CXは、機体の強度不足が発覚し、まだ試験飛行も出来ていません。無理に飛ばせばバラバラになる可能性があるようです製造全体は川崎重工ですが、問題の胴体部分は三菱の分担で、設計ミスのようなのです。

三菱は航空宇宙分野での最先端企業のようにふるまっています。実力は技術力には疑問符がつくようです。昨年のF2墜落事故での配線間違い

という初歩的なミスや、護衛艦のマストの強度不足など問題が度重なっています。その成立から国策会社として国家と一体となる中で、官僚体質が蔓延し、どんなにミスをしても最後は国が面倒をみてくれるというありようが染み付いたといわれています。ですから軍需産業として生き延びることが大前提になっているのです。

（週刊金曜日編 「国策防衛企業三菱重工の正体」参照）

—PAC3導入反対へ

PAC3の実際の運用は、配備された基地外へ移動して行われます。わずか半径二〇キロしか防衛できないので防護対象の近くへ移動するのです。名古屋周辺で最大の防護拠点とは三菱をはじめとして軍需産業地帯です。この地域一体がPAC3基地といつて過言ではありません。



一月は各務原で、岐阜基地への申し入れと「核とミサイル防衛にNO！キャンペーン」の杉原浩司さんを講師に集会を行いました。地元でもすこしですが動きもはじまったようです。五月三十一日には浜松で反対の集会、デ

モがあります。生産する三菱への抗議も含めて、来年二月岐阜基地配備に反対の声を強めていきましょう。

（早見）